

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ポプラ	評価実施年月日	平成 年 月 日 ~ 月 日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	1Fユニット管理者 八島 薫	記録年月日	平成20年2月19日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	運営理念:運営方針を独自に掲げ、それに向かい日々努力をしている。又、誰が見ても分かりやすい内容になっており、ポプラが何を目標に活動に取り組んでいるか、理解しやすくホーム内に提示している。		2ヶ月に一度の運営推進会議を実施している。 町内会の行事への参加。 町内回覧板にポプラ便りを定期的に掲載している。
2	2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を元に日々の予定をその日の朝に、話し合い行動予定を立て実施している。(個別ケア)		個別ケアの実施。 (日常作業・外出・散歩・ドライブ・リハビリ・外食・その他)
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居者とその家族、および地域の方にも理解を戴けるよう、ホームの玄関や廊下などに介護に対する考え方(理念)を分かりやすい内容で掲示している。		回覧板にホームの紹介、なおかつホーム内での取り組みなどを掲載している他、町内行事への積極参加に取り組んでいる。
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩などで外出の際、近所の方に出会った時は必ず挨拶による声掛けに勤めている。 又、近所からの戴き物(花・野菜)があった場合などは、必ずお礼を兼ねたご挨拶に伺うよう勤めている。		近所への声掛けや挨拶などの継続により、近所の方が気軽にホームへ立ち寄って戴ける環境作りに努力している事で、冬季には除雪の手伝いをしてくださるなど日常的な付き合いに取り組んでいる。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事(町内運動会・町内清掃)にはホーム職員や入居者が積極的に参加し、ホームの行事(避難訓練等)には地域の方にも参加・協力を戴けるよう取り組んでいる。		地域行事への参加のみならず、地域役員との話し合いの機会も増やし、より地域交流を深める活動に取り組んでいる。
6		事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者又はその家族から介護に係わる相談を受けた際は、介護職員としての立場を活かし、専門的な助言を通じた地域貢献に勤めている。		町内の独居老人の方も、気兼ねなく立ち寄って頂けるホームの環境作りに取り組んでいきたい。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前年度、初めての外部評価を経て、職員全員で評価の内容を確認し合い、今後どの項目に力を入れていけば良いか又、改善点の確認を行った。介護に対する評価は高かった反面、地域との繋がり面で更に密接な関係を築いて行くよう勤め順調に取り組がされている。		地域との関係で密接な関係を築く為、2ヶ月に1度の運営推進会議の内容を充実したものにし、町内回覧板や町内だけではなく、合同連合町内会の新聞に当ホームを知って頂く所から取り組みを始めている。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度実施し、参加者は町内会の副会長、福祉部長、役員、包括支援担当者、入居者、又は入居者のご家族、管理者をまじえ利用者へのサービス、近隣の方との接点をいかに深めて行くか等を意見交換しながら、少しずつでは有っても前向きに取り組んでいる。		すでに定期的な運営推進会議は行われており、その都度、記録の保管や、職員が何時でも運営推進会議の内容や取り組みについて確認ができるよう整えている事で、疑問点や今後の提案等が職員から気軽に話されている。又、職員会議にてもその都度報告を行っている。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者、及び他担当者とは不明な点等があった場合は電話連絡や訪問し相談を行っている。又他事業所の方と同行し市町村に出向き情報提供やサービスの向上に取り組んでいる。		市町村との連携を図り、グループホーム内における介護サービスの質の向上に常日頃取り組みをしている。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	当ホームにおいては成年後見制度を使用している入居者はいないが、生活保護者はいる。制度等の理解においては管理者やリーダー研修に参加した職員が知識を持っている。		地域権利擁護事業や成年後見制度については、殆ど学ぶ研修が無く経験や知識不足となっている。学習できる機会があれば、職員に参加して貰い、皆が理解できるように取り組みをしていきたい。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体的虐待に加え、言葉による虐待、又、無関心(無視)からの虐待等に対し学ぶ機会(学習会・研修)が有り、注意を払い防止に努めている。尚、身体拘束についても十分に注意を払い全職員が統一し防止に努めている。		現在、当ホームにおいて虐待は行われていないが、虐待に繋がる要素には職員のストレスや気持ちに余裕が無くなる事が多いと聞かされているため、職員同士やホーム全体でコミュニケーションをとる機会を作り、個人的に話し合う時間を設け、問題を一人に追わせるのではなくチームワークを大事にし、声かけなどで楽しく介護ができるよう取り組んでいる。
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前には本人、家族に数回訪問して頂き少しでも見慣れた環境の提供をし理解、納得をして頂いた上で契約となり、契約時には本人(場合に応じる)家族の方も含め十分な話し合いを行った上でやっている。又、解約時にも何度も家族と話し合いをし、専門医師の意見も反映し十分に理解、納得をしていただくよう取り組んでいる。		契約時には入居にあたっての他に個人情報保護法などにも納得していただいている。又全ての項目を承諾し納得して頂いた上で署名、捺印をして貰っている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の中で1対1で接する機会や、表情を見極め何か有りそうだと感じた時は自室にて話やすい雰囲気を作り、胸の中に抱えている問題を傾聴するなどして、速やかに対応をして行くことで不安等を取り除くと同時に職員全員に内容を伝え反映させている。又、家族や友人が面会に来たときは自室にて過ごして頂いている為自由に発言出来る環境を実施している。		今まで、利用者からの不満や苦情といった話は出ていなので、今後も現在同様に取り組みをしていく。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月ポブラ便りとして事業所内での出来事や行事の報告をしていると同時に各入居者の担当がご家族に生活風景や健康状態を手書きの手紙としてお知らせをしている。又、面会時には最近の様子、言動等の現状をお伝えしている。ご家族から職員へ感謝の言葉が話されている。金銭管理は月に1度買い物レシートを渡し預かり金残高の確認をして頂き内容に関して承諾(サイン、印)していただいている。		お便りをはじめ面会時での十分な関わりをご家族と図っている事でお互いが家族同様に近い状態に至って来ているため今後も継続していく意向である。又、家族会を開催し事業所からの報告に勤めながら、御家族からの意向も参考にし取り組んでいる。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を用意し自由に発言が出来るようなコミュニケーションを築いている。面会時に何か些細な不満や「こうしてほしい」等の声を慎重に受け止め管理者、職員に伝達し速やかに改善できるように体制を整えている。		今まで御家族からの意見箱に意見も無く、家族の思いや要望なども殆どない。(常に面会時に会話を設けていて、その場で気軽に話せる環境になっていると思われる)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者、管理者が常に現場に出たり状況の把握をしながら、職員会議を始め学習会も開催している他、休憩時間等にもコミュニケーションをとり話やすい雰囲気が有り自由に思っている事を発言出来る状態である。		日々の休憩時間や出勤前の空いた時間などにも気軽に意見や提案が話せるような機会を設け反映をさせている。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化や悪化に伴い早急に会議を開催し速やかな対応に取り組んでいる。又、夜間帯での急変や困った事が発生した場合には管理者がかけつけ落ち着くまで補助に入るなど柔軟な対応に努めている。		日中の勤務に対しては朝、日勤者が揃った段階で夜間帯での変化を報告し一人ひとりの状態を確認し合い状況に応じて調整に努めている。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	身体的不調理由にて離職はあったが極少なく、その為利用者へのダメージも見られず抑えられている。離職した時点ですぐに担当者を変更し利用者の不安を取り除くよう配慮するとともに信頼関係を築いている。		職員の移動が無い事で常時いる職員との馴染みがとれ、又、非常勤であってもかなり信頼関係のおける馴染みができている。今後も利用者へのダメージを防ぐ配慮をしていく。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修には出来る限り常勤、非常勤にかかわらず参加するようにしている。又、参加した職員より職員会議、勉強会時に内容の報告、資料やレポート等により情報の伝達をおこなっている。尚、当ホームにて当職員が1日入居者になって実体験を実施するなど職員の育成に努めている。		研修等に似通った内容が多く、出来れば初心者・中間者・リーダー等と幅の広い研修が開催されたいと思う。現在の研修報告は、おおまかになってしまいがちになりやすい為、工夫して参加出来なかった職員にも、きちんと把握出来るよう取り組みをして行きたい。
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在、運営者は管理者、リーダー等を地域、他地域の同業者、及び医療関係者との顔あわせの席に同行して貰っているが、多数の職員も同様に会議や勉強会に出席をし、自ら連絡を取り合うような取り組みをして行きたい。まだ活発的では無い為、双方の活動や情報交換をしサービスの質の向上をさらに目指している。		地域の同業者等との交流を増やす機会を作り、情報交換がさらにスムーズになることで双方がスキルアップ出来るよう取り組みをして行きたい。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者自身が管理者なので職員会議、勉強会の中で今抱えている問題点等の話し合いを設けている他、カラオケ、食事会、個人的に共有できる活動が有れば職員同士休みに出かけている。当ホームでは何時でも悩みや思っている事が有れば気軽に話せるよう又は、こちらから聞ける雰囲気を作っているため、問題を抱えたまま帰宅しないよう、ストレスの軽減や環境を整え常に楽しく職員同士が接触できるよう取り組みしている。		常に話をしあう事が一番のストレス解消に繋がると考えている為、どんな内容で有り時間外に至ったとしても、納得し気持ちが楽になるまで、相手の気持ちを考慮し傾聴する事に力を入れているので、職員皆が働けなくなるまで此処に居たいと言われていた気持ちに感謝し継続して行く。
22		向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者自身が管理者で現場に従事している為、職員の勤務状況や状態は当然把握しており、日々の中において職員の活動や努力は素直に言葉にして認めている為、職員は更に向上しますと返答される。実績においては時間や月日を見て言葉や形にするよう取り組みをしているので「やりがいがあります」といわれている。		職員皆が、とても良い表情・向上心をもって出勤し介助に取り組んでいる為、生き生きとしている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初めての来訪時相談から、本人の訴えや困っている事をゆっくりと傾聴出来る環境を作り、何を求めているのか？どうしてほしいのか？不安に思っている事を見極め御本人と何度もお会いし馴染みの関係を作る事でご本人を受け止める努力をしている。		御本人からの訴えが出来る方と出来ない方がいらっしゃる為一人一人との関わりの中で不安・困っている事・求めている事を見極めながら引き出し、本人訴えが有る場合は速やかに対応を取り組んでいる。又話が出来る方とは、ご本人の話を聞き入れ内容を書面に記録し職員全員が統一したサービスを取り組んでいる。
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族からは電話や来訪時から相談が多く、入居者、御家族の抱えている問題点を詳しくゆっくりと傾聴する所から努力し、入居者同様何を求めているのか？どうしてほしいのか？又御家族から何を求めているのかを見極めている。ご家族の心労や思いを胸の中から吐き出していただけるまで、こちらから会いに伺ったり、何度も来訪して頂き利用に至るまでには、初期に築く信頼関係は取り組んでいる。		御家族からも十分に話を聞く機会を作り、ホームに「こうしてほしい」などの要望があると思うが遠慮しがちな為、上手に気持ちを引き出せる様常に努力し取り組んでいる。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期の相談を本人及び御家族から聞き、支援内容の必要性を見極め、医療との連携がどの程度とされているのか、又「そのとき」に必要としている支援を検討し早急にカンファレンス会議にて、家族の意向や本人の必要とされるサービスが自然帯で行われるよう努めている。		初期段階の為、ご家族から「もっとこうしてほしい」との思いが有ると思うが、色々な支援希望を遠慮なく話せるように、上手く引き出してサービスに繋がるよう努力し取り組んでいる。
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心して頂く為、入居事前にホームへ来て頂き「見覚えがある」「すでに覚えていてくれた人がいた」等を努めているので、その場から混乱を起こす方は居られない。さらに、居室には本人が馴染みとして利用した物を置いて頂き安心感が得られている。サービスにおいては、多少時間もち、その人らしい暮らしが出来るよう把握し自然に馴染みの関係が作れるよう職員からも工夫をしている。		気軽に居室、居間を行き来できる雰囲気提供にて、自由に過ごされているが、大半の方は居間で生活を共有されている。一番はご本人が安心して生活出来る場所が有る事であり、個人個人に必要な支援をご家族と相談しながら工夫し取り組みをしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ホームの方針にも有るが、職員は自然に入居者の方を、自分の家族「両親・祖父母」と同じように思っている為、共に日常生活を通じてお互いに喜怒哀楽を共感し生活をしている。入居者の方は自分達よりも人生の先輩であり学ぶことも数多く、共に支えあえる関係を築いている。		日常生活を通じ共有している事が多い為、会話の中で涙されると共に涙したり、冗談話でおなかを抱えて笑ったりと共感しあい、感情を共にしている。
28		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	当ホームでは面会が多い為、お手紙の他に常に入居者の日常生活の様子をお伝え出来るので、同じ目線・方向を向いて支援し合える関係が築けている。		日常生活の細かい変化などを、面会時に必ず説明しご理解を頂いてることで、入居者に関わることで共に喜怒哀楽をだし職員全員と一緒に支えていく関係が築けている。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居当初を含め、面会時に本人の今までの生活状況をご家族から教えて頂いたり、又ご家族から昔話をしてくださる等、本人とご家族の関係が回数を重ねて行くほど理解がなされ職員が同じ気持ちで対応するよう支援している。、ホームへの入居を決める際の心労や自宅での介護を聞いていく程、お互いに信頼関係が築けている。尚、新しく入居された方にも同様、信頼関係が築いていけるよう支援している。		本人とご家族には良い関係でいて頂くためにも本人・ご家族共に職員がパイプラインとなり支援に努めている。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会においては特に制限も無く、友人・家族が何時でも(連絡は事前に必要なし)来れる事が出来、電話の必要性も自由になっているため、馴染みの人との関係が薄れることの無い様努めている。人間にとって馴染みの関係は財産であると思われる。		本人が大切にしている場所、行きたい所の希望が出ると同行している。又、ご家族と外出や外泊も自由な為、馴染みの場所へ出向き本人の思いを大切にし関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、又、個人の意思を尊重しながら孤立せず関わりをもち、支え合えるように努めている為か、自然と居間で自分の居場所を確保しながら他人居者と関わりが作られている。		本人の意思で自室で過ごしたい時は考慮するように努め、居間に転寝をしている方がいると、ひざ掛けをかけた色々な部分で支えながら気兼ねなく過ごせるよう取り組みをしている。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他施設・病院に移行された方であっても、ご家族からホーム時の情報を気軽に連絡できるような関係にはしている。		ご縁が合って当ホームに入居されたが、何らかの事情(医療の必要性)にて転居されても、関係が遠のくことの無い様つきあいを大切にしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしく暮らして頂けるよう個人の希望・意向を取り入れて過ごせるよう対応の努めている。困難な場合は色々な角度から取り組みをし本人の表情等を十分に考慮し気づいた時点で記録に記入するなどし、速やかに職員にて検討し報告、連絡としている。		一人ひとりの思いや意向が有るので、個別ケアを重視し、その人らしい生き方を取り入れている。又困難な方であっても、気持ちに通じる為、その人に合ったサービスを検討し実施している。
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や今まで、どのような暮らしをして来たか等は、暮らしの情報シートにて、個人ファイルされ何時でも(休憩時間等)職員が観覧出来るようになっている。		職員一人ひとりが積極的に入居者の過去を調べる意識が強く、どうしてあげたら良いか等を、把握しやすい状態にしている。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの1日の過ごし方においては、心身状況・排泄・血圧・熱・水分量・夜間帯の状況が(どのように過ごしているか)総合的に職員含めご家族も把握できるよう努めている。		その日の心身状態・身体状況が違ふ事も有る為、変化がみられる時にどのような支援をいっていくか、速やかに相談しあい改善にむけ実行されている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者がより良い暮らしができるよう、介護支援専門員の監理のもとに、職員・ご家族の意見などを反映した介護計画を作成している。		介護計画書の作成にあたり、ご本人やご家族の要望ご記入欄を設けるとともに、記入いただいた内容に基づいたカンファレンスを行い、ご家族に納得いただけるよう作成している。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の身体状況に変化があった場合は、早急に介護サービス計画を適切な内容へ見直し行うとともに、ご家族への報告を行っている。入居者の身体状況に変化がない場合においても、3ヶ月毎に介護サービス計画の見直しを行い、対応が不十分な点がある場合は、介護支援専門員の監理のもと、適正な内容へ変更を行っている。		入居者の心身や身体状況の変化に対応するため、随時、介護支援専門員の適切な監理のもと、介護サービス計画書の見直しを図っている。
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活の個別記録作成については、介護中に気づいた点や工夫の必要性が感じられる点も記入し、会議にて情報の共有を図るとともに、今後の実践や介護計画の見直しに活かしている。		個人の生活状況を記録するにあたり、日中・夜間等の時間帯や入居者の発言内容について、色分けを組み合わせた方法での記入を行い、個人の状況がより把握しやすくなるよう工夫を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	当ホームは開設3年未満の事情から、多機能性の取り組みまでには至っていない。		今後の方針として、デイサービス・ショートステイの取り入れを図ってゆく方針である。又、近隣の独居の方が気軽に来訪できるように思案中。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人がより安心して暮らせるために、必要に応じた避難訓練の実施や、ボランティア・保育園児の来訪活動を行っている。		本人とご家族がより安心していただける環境を作るため、職員全員が順次赤十字救急法の研修を受け、心肺蘇生の知識と技術を身につけている。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のケアマネジャーやサービス事業者との情報交換や話し合いを行い、必要に応じて他のサービスを利用するなどの交流や助け合いに取り組んでいる。		他のサービスの利用を通して、地域やサービス事業者との交流を深めるとともに、ホームとして地域への密着を深める取り組みをしている。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に一度の頻度で運営推進会議を行い、地域の密着や入居者の全般的なケアマネジメントなどについて、地域包括支援センターの方と協働した話し合いを行っている。		地域包括支援センターとの情報交換や伝達を通して、より本人の意向や必要性を尊重した、長期的なケアマネジメントへの取り組みを図っている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	18	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月に一度の内科・外科医の院長往診が有り、看護師、調剤薬局の方も同行している(毎回同じ人)管理者が入居者の生活管理表作成し、双方が持つ事で一目で大まかな状態が把握され、管理者立会いの元で更に詳しい状況が必要とされる入居者への相談も交え支援している。又、日中、夜間時の対応も速やかに行われている。		毎回時の顔が入居者に覚えられ安心感を持たれている。直接先生に心配な事を聞かれる等信頼関係も出来ている。(緊急時の入院にはベットの確保がされている)
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	2週間に1度、認知症専門クリニックとの提携にて受診を行い、利用者の状況変化を医師が確認をしている。又、日常生活面にて変化が生じた時は随時連絡にて支持を受けたり、速やかに受診にて対応し適切な判断のもとで支援している。専門医で開催されている研修にも参加し、スキルアップを図っている。		利用者に変化が生じた時は専門医の指示にて薬の調整を行い、利用者の負担を軽減している。常に精神面・身体に起き得る副作用の軽減は極力抑えて対応し支援している。
45		看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所内に看護師が勤務している事で、当初から利用者との関わりを持ち勤務外にも顔を出して、状況を把握されている。24時間体制の契約にて夜間時にも気軽に相談が出来ている。提携している病院の看護師とも往診時、受診時以外に交流を深めているため、何か不安な事を感じた時には、気軽に電話などで対応し利用者の健康管理の支援をしている。		現在においては、事業所勤務の看護師、提携先の看護師との連携が上手く関われているので、更に利用者や家族に安心して頂けるよう考慮し、支援に取り組んでいる。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際に安心して治療を受けながら、過ごして頂けるよう病院側と密に情報交換する事で早期退院に努めている。		入院時には速やかに管理者が同行し利用者が安心出来るよう環境を提供し、御家族にも速やかに連絡をとり、状況を説明し御家族が来院するまで管理者は付き添いをしている。(当日ご家族が来られない時は病棟師長が協力してくださっている)又管理者は毎日面会を行っている。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期については、段階を踏み家族や病院と相談をしながら、又、往診時にご家族に同席して頂き、状況の理解を含め家族が安心出来るよう常に面会時にも詳しく説明をして職員全員が重度化している方針を共有している。週末期に向けた具体的な医療との書面化がされていないので今後、早急に対応をしていく方針である。		終末期に向けての具体化を早々に医療と相談しながら、ご家族に安心して頂けるよう事業所として確立し、全員が方針を共有できるようにしていく方針である。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在当ホームで終末期を迎えている利用者は居ないが、重度化してきている利用者に対して1日1日をより良く過ごして頂けるよう体調を常に見極め「出来ること・出来ないこと」を職員は利用者の状況を報告しながら支援に取り組んでいる。今後の変化に備え随時カンファレンスし準備を行っている。		終末期に関わる話は医療との間ですでに出ているが、利用者が出て来る前に早急に医療とのチームの流れ、準備等を書面化し支援に取り組みして行く。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49		住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人の精神的・身体的等を含め、本人が理解出来るようであれば、本人、御家族、管理者間で十分に話し合いを行う一方、ご家族と管理者は必ず医師の意向を共に聞き入れ、職員とも会議を開き利用者のダメージを防ぐ事に努めている。尚、移り住む際にも十分な情報提供を図り、スムーズな暮らしになるよう努めている。		利用者が新しい生活を始めて行くにあたり、的確な情報を提供を行う事でダメージを最小限に努めている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーの確保の徹底には、日頃から一人ひとりの意思や誇りを損ねないよう、状況確認しながら、例えばトイレ誘導時には耳元で声かけをしたり、何かの失敗が起きても周囲に気づかれないよう配慮している。職員全員は記録内の記入においても個人名は記入せずに気配りをしている。		排泄、食事、入浴、日常生活内で行われる個人のプライバシーには職員全員で配慮し、常に気づいた点が見つかったと、その場で対応策を相談し日誌に記入しながら、個人情報に関わることの為日頃から対応をしている。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常生活を通じて個人の思いや表情を見極め、職員から言葉かけにより思いを引き出し、又は自己決定が出来る方には幾通りかの選択方法にて納得出来、満足して頂けるよう支援をしている。なかなか表現や言葉にならない方へは過去を調べ趣味や好きなことを取り入れながら支援している。		あくまでも本人に声かけをし、一人ひとりの意思を見極め確認し、本人の希望や意志を尊重している。
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームは施設でないため、職員側の都合で日々を過ごすのでは無く、あくまでも個別ケアに重点を置き、一人ひとりのリズムやペースを大切に、自室でゆっくり過ごしたい方には個人の場合や時間を提供し、その日の過ごし方をケアプランをもとに、又、職員で相談しながら、それぞれの利用者の希望も取り入れ支援している。		常に一人ひとりの意向が優先で1日を通して何がしたいか？どうしたいか？を個人のリズム・ペースに沿って要望を取り入れて過ごして頂いている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	そのひとらしい身だしなみも個人差は有るが、日々お化粧をしていた方は、ホーム内でもお化粧の習慣が身につくよう支援している(化粧する事で気分も明るくなる)洋服関係はご家族が用意される以外ホーム側に任せられ外出出来る方は職員同行し、自分の気に入ったものを選んで頂いている。整髪も本人希望のお店が有る場合は同行し、行けない方には訪問理美容業者に依頼しパーマ、カットをして身だしなみを保てるよう支援している。		何時までも、おしゃれに関心を持って頂けるようネイルケア、訪問エステ、ウインドウショッピングなどで喜んで頂き、おしゃれの楽しさを忘れないようにし、日々の服装にも気配りをし支援している。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しむ事の出来るように、献立を利用者と一緒に考え取り入れている。又、個人に合わせ食事の量やきざみ食、トロミ食としている。盛り付けに工夫し配色や器にも配慮しながら、楽しみとなるように支援している。尚、活動が出来る方には盛り付け、食器洗い、食器拭き、配膳、片付け等さまざまなお手伝いが出来るよう職員と一緒に会話を交え行われている。		台所に立てなく食卓テーブルでの作業が可能な方には、その場で出来る事をして頂けるよう支援している(食材切り、盛り付け等)

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒・タバコを吸う方はいない。おやつ、飲み物等に関しては個人の好きな物を把握しており、状況に合わせて楽しめるよう支援している。飲み物も数多く用意しており、冷・温と工夫を取り入れ又同じものばかりや、糖分・塩分にも気を遣いながら支援をおこなっている。		間食時間は3時と設定されているが、時には10時にも設けていたりするなど工夫をしている。おやつ全般はホームにて用意をしているが、買い物に行く際、要望を聞き楽しみを作っている。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居当初オムツやパットを随時使用していた方もおられたが、一人ひとりの排泄時間を設定し、声かけ誘導していく事により、布の下着となり感触が心地良く思われている。御家族からも喜ばれている。排泄の失敗を減らす為にアセスメントをしっかりと取り入れ職員全員が個人のパターンを把握し気持ちよく排泄できるよう支援している。		一人ひとり排泄パターンが違う為、時間の設定や様子観察をし、声かけの実施を行っている。また失敗があった時には優しく「出で良かったね」等本人が気にしなくて済むようにし、暖かいタオルにて清拭もおこない、本人にさっぱり感を得てもらえるよう支援している。
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	最低週2回の入浴をローテーションとしているが、本人の体調や希望に加え、便失禁などの事情も考慮し、ローテーションの調整やシャワー浴の活用などの支援を図っている。また、好みの入浴剤やシャンプーなどを取り揃え、入浴をより楽しめる工夫も凝らしている。		軽度な介護者(自力入浴可)においても、入浴の際は必ず見守りを行う管理体制としているが、今後においては時間帯などの制約を広げ、毎日でも入浴が可能となる管理体制の取り組みを図ってゆきたい。
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活リズムや体調の見極めを常に行い、それに応じた休息や傾眠・安眠が図られるよう支援を図っている。また、夜間の入眠時においても不安などの訴えがあった場合は、状況に応じて付き添いや傾聴を行い、不安の解消や安眠への誘導を図っている。		より安眠が可能となるように、寝具などは馴染んだものを自宅から持ち込んで戴いている。また、季節に応じて寝具の調節を行うとともに、各自室内における室温や照明にも考慮し、より安心した睡眠が図られるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や趣味などを把握し、散歩や買い物、生け花、調理など個別の楽しみごとを取り入れることにより、喜びのある日常生活を過ごせるよう支援を行っている。		日常生活の役割として、調理・配膳・掃除・裁縫などを取り入れている。日常生活の楽しみとしては、ドライブ・喫茶店めぐり・公園の散歩・カラオケなどの趣味や気晴らしを取り入れている。
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の自己管理が可能な方においては、ある程度の所持をして戴き、自らの意志による買い物や支払いができるよう支援を図っている。自己管理が困難な方においても、買い物などへは職員が同行し、金銭感覚などに関わる支援を行っている。		高額な買い物においては、その必要性についてご家族との相談をしながら、一人ひとりの希望や意志に応じた買い物を楽しんで戴けるよう支援を行っている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりのその日の体調を観察しながら、独歩・車椅子・介助など様々な支援をしながら、季節に応じて毎日のように外気浴の実施(夏場の遠出不可時は事業所裏のベンチにてお茶飲み)している。冬季はどうしても外出が限られてくるため近くのスーパーに徒歩、車椅子での外出の支援としている。		冬季以外は利用者が日々楽しめるよう多数の外出を実施しているが、冬季に関しては外出が近くのスーパーへ独歩、車椅子での介助にてと限られてしまいがちの為、もっと工夫をし戸外へ出かけられよう取り組みをしている。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別で行きたい所(お墓参り、趣味のお店)や、他の利用者と共に、海、小樽、植物園、外食、花見など、四季折々に外出をする他、年に1度御家族自由参加にて洞爺湖・定山溪温泉1泊の観楓会を開催し思い出作りの支援をしている。観楓会は大変好評にて毎年継続していきます。		普段、ご家族と共に外出は殆どされていない為、事業所で車椅子対応の車を用意した事で行動範囲が広がり、普段行けなかった所にも容易に出かけられるように、充実した外出の取り組みとなっている。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自ら電話を使用したいと希望があった時は、自室にて回りに気兼ねする事が無く会話ができるよう配慮し、又、個人で携帯電話も使用されている。手紙のやり取り(文字が上手く書けない方には了解を頂き代筆)が、何時でも出来るよう便箋やはがきの用意をし、相手から来た文字が読めない場合も了承を頂き代読するなどの支援を行っている。		入居者本人が電話の使用や手紙のやり取りには自由に行われていて、御家族、友人が荷物が届いたとき自ら連絡を取れる方は自由に連絡をして貰い、苦手な方へは職員から声かけをし、お礼の電話を入れて頂いている。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関は何時でも訪問できるよう鍵の開放。又、御家族・知人等、本人にとって馴染みの方が来訪された時には、本人の自室へお招きし、テーブルやお茶・ポットを提供し、気兼ねなくゆっくりと楽しめるように環境の工夫している。		自室で楽しく過ごされる方もおれば、他入居者とも顔なじみになり、居間にて一緒に会話をし過ごされる事も多々見受けられる。来客・入居者共に良い関係が出来てきていると思われる。
(4)安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者は常に現場に出ている為、入居者の心身、身体状況を管理者を含め、他職員からの情報伝達や、状況の変化を把握するとともに、会議だけではなく、日々の生活状況の中で拘束自体の意味を職員全員が理解している。尚、状況判断に不安を感じた時にはカンファレンスを開き、医師にも相談をし身体拘束をしないケアの実施を行っている。		座位が保てない入居者へのみ、御家族や医師、看護師と相談し入居者にとって座位が安定することで家族がクッション等を作り、居間での生活や車椅子で散歩も可能となっている。ベットからの起き上がり時に転倒のリスクが高い利用者には、音で動作を拾えるよう御家族に状況の説明をし布団に鈴をつけている方がいるが、鈴の音にて転倒防止となっているゆえ、御家族も安心されている。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアを実施している。	運営者及び全ての職員は、居室、玄関に鍵をかけないケアをしている(施錠は拘束である事を認識している)が、内玄関及び外玄関には、人の出入りがわかるようチャイムのみを設置している。夜間帯のみ施錠はしている(外部進入者防止)		入居者の行動に気配り、目配りをし鍵をかけないケアに取り組んでいる。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67		<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中、自室にて過ごされている利用者の様子を何気ない言葉がけにより、様子を把握し記録に記入を行っている。夜間帯はプライバシーを尊重しながら、最低3回の巡回を行っている他、ドアを少し開けて頂くことの理解を得て、物音で職員がすぐに訪室し安全確認に配慮している。</p>		<p>職員は原則として一人は居間にて全員の行動を把握するよう心がけているが、1ヶ所のみ入居者が静かにドアを開けトイレに行く際、音や姿が把握しにくい部分が有る為、転倒の安全を考慮し鈴をつけることで所在や様子を確認している。</p>
68		<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>注意の必要な物品(包丁・洗剤・ガス・はさみ・針など)はそれぞれの保管状況を考慮し危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		<p>包丁・はさみ・針を使用する時は職員の見守りの元で作業を行って頂いており使用終了後職員は数の確認を行って保管している。洗剤などは危険度も高く常に使用しやすい場所に有る為、保管している場所のドアには鍵の使用をしている。ガスにおいてもガスを使用としなくなり次第ロックをかけるなどして、職員全員で保管・管理を取り組んでいる。</p>
69		<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が事故防止の為に、一人ひとりの状態を常に観察し今後のケアや未然に事故を防止していくために、救急措置の本や、研修会に参加した職員、及び体験者から知識を学び取り組んでいる。</p>		<p>定期的に事故防止の取り組み方を勉強していないと、突発的に対応がなされないため、職員間や勉強会でさらなる回数を増やしていく取り組みを思案している。</p>
70		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に備え、速やかに対応するためのマニュアルを作成しており、全職員がいつでも確認できる場所へ掲示を行っている。</p>		<p>利用者の熱発や打撲、擦り傷、切り傷、火傷、咳き込み、などの日常的な事故における初期対応については、職員が研修会や勉強会に参加し対応力を高めている。</p>
71	27	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回の避難訓練を行い、消防のみならず地域役員や近隣の方にも協力を働き、実際の災害を想定した内容で実施している。避難訓練を通して判明した不備な点については、消防などからの指導やアドバイスを働き、必要に応じて災害対策の改善を行っている。</p>		<p>実際の避難訓練においては、入居者のみならず職員までもがパニック状態や、呆然としてしまう傾向が確認されたことから、今後も避難訓練の定期実施に加え、地域や近隣の方からの協力や支援が得られるよう働きかけも行き、災害対策のより充実に向け取り組んでいる。</p>
72		<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>一人ひとりに起こりえる様々なリスクについて、ご家族への十分な説明を行い、利用者に向けた対応策(安心感)を検討し、ご理解を得た上、抑圧感のない暮らしを大切にしている。</p>		<p>日常生活における様々なリスクは流動的な面があることから、職員は常に入居者の状況など見極めを行い、安全性に関わる要素についての情報交換を、職員の間で随時行っている。</p>

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調については、起床時・昼食後・夕食後に必ず、血圧・脈拍・熱の確認を行っている他、顔色や表情、食欲不振、寒気等、職員全員が見極めをしていて、変化が見られた際には、速やかに情報を共有し早期発見や対応を図っている。		利用者の体調に変化が見られた時に、出勤をしていない職員も居る為、必ず日々の日誌や記録に目を通す事の他、申し送りや情報伝達を行い把握する事で対応に繋がっている。
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者で薬を使用されている方において、正社員は受診時、薬の目的や副作用を医師、薬剤師から十分な説明を受け、状況に応じて量の増減が有る時は内容を把握し、変更が有った際には職員全員が理解出来るよう伝達し、副作用が見られる時等は、速やかに医師に変化を伝え確認に努めている。又、薬の内容用紙は1冊のファイル化にし、誰が何を飲んで、どういった内容なのかが一目でわかるように工夫もしている。		利用者が現在服薬している、内容や副作用等が、分かりやすく観覧出来るよう、薬ファイルを作り服薬の確認が理解しやすい状態にし、薬の辞典も置き詳しく確認出来るよう努めている。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	利用者全員の排便チェック表を作成し、日々の観察を行うとともに、便秘の原因などに伴う食事の内容・水分確認・身体を動かす事の働きかけに取り組んでいる。予防には毎朝起床後に豆乳を飲んで貰うなど工夫をしている。		食事面においては、食物繊維の多く含まれている食材を使用し、デザートにヨーグルト、乳製品、繊維質の多いフルーツを取り入れ、又、腹圧がかかるようにカラオケを取り入れるなど、便秘予防と対応に取り組んでいる。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後は必ず全員が口腔ケアを行い、一人ひとり状態も違う為、職員の声かけ・見守り・介助にて口腔状態に応じた支援をし、清潔保持を図っている。夜間は義歯を預かり洗浄を実施している。		訪問歯科が毎週1回検診に来ている為、その都度アドバイスが必要とされる場合、速やかに職員全員に伝達し統一を図り、利用者が美味しく食事を取れるよう取り組みをしている。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養摂取や水分確保の支援を実施している中で、一人ひとりの1日のバランスが誰が見ても、すぐ把握出来るケース記録となっている為、食事が不足がちな時は捕食し、水分不足と思われる際には、小まめに促しを行っている。又、どうしても食材が体質的に摂取出来ない方・嚥下状態にも合わせトロミをつけ、他の材料同様に1日の栄養バランスを支援している。		一人ひとりの食事の量も違う他、刻み・トロミであったりと、利用者の状態に合わせて支援している。体重維持にも気をつけている、
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に対するマニュアルを作成し、目のつく所に掲示し常に何時とすることは無く、感染源は年間通して身近から発生するという事を、職員全員が理解して予防や対応に取り組んでいる。		汚物処理は勿論の事グローブの使用。食卓・トイレ・洗面台、食卓・食器洗い・まな板・様々に手や口、足から感染しやすいので床等も食後はブリーチ使用にて清掃を行っている。生ごみや汚物にはブリーチをスプレーしている。トイレ後、食事の手洗いも徹底されている。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食中毒の予防の為に台所・料理用具等の衛生管理には、使用した布巾はブリーチに漬け置きし、食事をした食器・まな板(野菜、肉、魚と分けている)の使用後もブリーチ使用にて管理に努めている。食材においては、鮮度や日付の確認を実施している。</p>		<p>食材の管理においては、冷蔵庫・大型冷凍庫を持ち入れ、常温で保存出来る以外は全て安全を取り計らっている。季節に応じて痛みがちな時期はこまめに買いものへと配慮している。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>利用者、家族、近隣の方から、温かみを感じられるよう玄関先に可愛らしい置物や、建物の周りにはガーデニング・イルミネーション等の工夫をこらす事で、親しみを持って頂き、自然と会話が出来るようにも配慮をしている。</p>		<p>玄関先には手すり・滑り止めのスロープ・車椅子の移動にも広く考慮しながら、明るく、清潔感にも努め、建物の前を通り親近感や温かみを感じていただけるよう工夫に取り組みをしている。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は明るく清潔感を保ちつつ、季節感の取り入れ(レリアウトなど)心地よく過ごせるよう工夫を図っている。また、不快な光についてはカーテンの活用により心地良い環境作りに配慮している。なお、不快な騒音については一般住宅街に立設されているため問題はない。</p>		<p>今後において、万一、不快な騒音などが発生した場合は、速やかに相談や要望が行えるよう、日頃から地域および近隣とのコミュニケーションを図っている。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食卓や居間を開放することにより、独りで気兼ねなく新聞を読んだり裁縫を楽しまれたり、ビデオ鑑賞や気の合った利用者同士の語らいを自由に楽しんでもいただけるよう、ゆったりとした環境作りを行っている。</p>		<p>食卓や居間の開放に加え、廊下にくつろぎの場を設け、お茶や景色の眺めを楽しみながら、時には外の風を感じ取って戴き、ゆったりとした気分で思いおもいに過ごせる環境作りも行っている。</p>
83	30	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には家庭でご使用されていた家具や寝具を初め、ご家族の写真や、花・絵・人形などを飾り、極力慣れ親しんだものを活用することで、より心地良く過ごせる環境作りを行っている。</p>		<p>より使い慣れたものや好まれるものを、本人やご家族と相談しながら調達し、設備および装飾を施し、より一層心地良く過ごせる居室となるよう工夫をしている。</p>
84		<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気においては、毎朝掃除を行う際、必ず窓を開け、日中も空気よどみや匂いがこもらない様、空気入れ替えを実施している。湿度・室温に関しても、各居室や居間などに室温計を設置し調節の管理を行っている(利用者の意向により状況に応じた対応をしている)</p>		<p>職員の出勤時は特に中の匂いや空気よどみが把握しやすい為、来客があった際には不快感となるので、何時も、温度・換気等に気配りを行っている。</p>

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>開設当初は良くわからない部分が、時間が経つにつれ、各入居者の身体状況に工夫を取り組む情報交換が上がり、職員も利用者の立場に立つ事で、安全で尚且つ自立した生活を送りやすいように工夫をし、又、常に改善点が出た時短で速やかに対応し、身体機能を活かしなが安全に暮らせるよう環境の配慮をしている。</p>		<p>トイレ内・浴室・玄関、必要に応じて各居室に手すりを設置した事で、より一人での身体機能が活かされ、更なる安心感をもって頂くことにより、自立動作へと移行されているため、状況に合わせて随時取り組んでいる。</p>
86		<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの日常生活活動動作より、その人の出来る事やわかる力を見極め、個別ケアプランとし、職員が傍で見守りしながら、混乱や失敗に至らないよう防ぎ、少しずつであっても、自信が付き自立に繋がるように工夫した環境づくりをしている。</p>		<p>個別ケアを重視し、自宅では何もさせて貰えなかったことが、声かけや見守りの中、回数を重ねて行く事で「自分にもまだ出来る」等の達成感や自信に繋がって来ている為、今後も個人の出来る事を引き出し、自立に繋がる暮らしの支援を取り組みして行く意向である。</p>
87		<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周りを最大限に生かせるよう、職員間で工夫し玄関前にはベンチ・裏庭には焼肉などが出来るよう、手作りの長ベンチにテーブルが置かれている。表・裏においても、入居者が楽しめる環境の提供や活動が出来るよう、ベランダ側には物干しを置き、日々洗濯物を干したり、取り入れたり、時には草むしりなどの作業も自ら行われ活気があふれている。</p>		<p>春になると、狭いながらもガーデニングをしており、入居者と一緒に花を買いに行く、植えるなどの実施。そのときは、生き生きとし楽しい表情が見られる。水をあげたり、ベンチに腰掛けて色とりどりの華やかな花々を見ている事で気分転換にも繋がっている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に 印をつけること)
		印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気のもとで、ともに寄り添い穏やかで安心した日常生活を過ごせるよう、取り組みを図っている。

一人ひとりの意思の尊厳を大切にしつつ、できないことの支援を行っている。

既に、入居者や職員のご家族からも入居希望の声を戴いているが、今後も同様な声を戴けるよう更なるアットホームな環境作りを続けてゆく。

職員間のコミュニケーションが充実しており、仕事の連携や意志の疎通が図られ、職場に活気が満たされ明るく笑顔に満ちている。